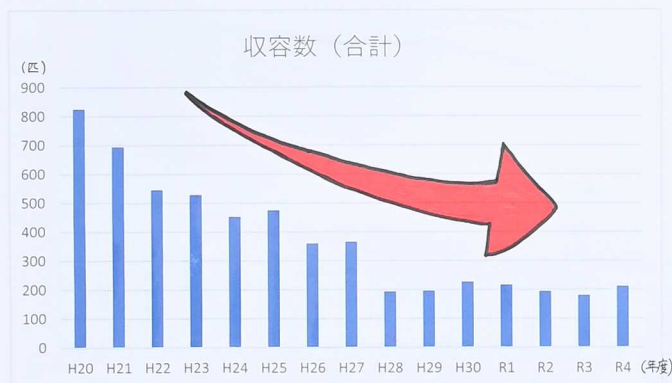


調べようとしたきっかけ

私の家で飼っている猫は保健所で保護されていた猫である。以前からテレビで保護猫の番組を観ていて、猫を飼うなら保護猫がいいと思っていた。だから、保健所のホームページを定期的に見るようになった。ホームページには、毎週のように何匹かの猫が次々と紹介されていた。しかし、紹介されている猫全部が譲渡されているわけではなく、なかなか譲渡されないままの猫がいるのも現実であった。そこで私はどれくらいの猫が保護されてそのうち何匹が新しい飼い主のもとに行っているのかが気になったため、調べてみようと思った。調べていくと、奈良市での動物の保護活動が進んでいるのを知り、奈良市での猫と犬の収容数や処分数を調べることになった。



資料:奈良市ホームページ犬猫の収容数の推移 (2023年5月30日時点)city.nara.lg.jp

平成二十年度から平成二十八年年度にかけて収容数は減少してきている。平成二十年度と平成二十八年年度を比べると平成二十八年年度の数は平成二十年度の四分の一ほどになっている。平成二十八年年度から令和四年度までは収容数が二百匹前後を継続している。収容数が減少している理由を調べると殺処分ゼロを達成するための奈良市の取り組みの主な二つのうちの二つに保健所での引取り数の減少があることが分かった。そして、TNR活動というものがあつたことも分かった。



資料:奈良市ホームページ譲渡数と殺処分数の経年変化 (2023年5月30日時点)city.nara.lg.jp

殺処分数 4年連続で

0に!!

左のグラフから譲渡数は平成二十年度から令和四年度までで約四十倍になっていることが分かる。増加した理由を調べると平成二十七年三月から奈良市が譲渡ボランティア制度を開始しており、このことが要因ではないか考えられる。このこと収容数の減少から殺処分数が減少しているのではないかと考えた。

助けられる命



TNR活動とは?

これ以上不幸な猫を増やさないという目標で行っている。飼い主のいない猫に不妊去勢手術をして元の場所に戻すという活動である。

収容数は昔に比べて減少しており、それはTNR活動が進んでいるからではないかと考えた。譲渡数は平成二十七年三月から開始した譲渡ボランティアがきっかけでその年から増加したのではないかと考えた。これらが殺処分数四年連続ゼロにつながった要因なのかもしれない。そして殺処分数ゼロを継続していくには行政に頼るだけでなく、私達にできることを考えることが大切だ。

まとめ

もしペットを迎えるなら、保護犬・保護猫をお迎えしたい?



家族や友人、その家族14人を調査(2023年8月20日)

実際に迎えたことがある「お迎えしたことはないが、してみたいと思う」と答えた人が多くいた。このような人がこれから増えていけば、助かる命もさらに増えていくと思う。飼うという方法だけでなく、私達が動物のためにできることを考え、実際にやることも大切だと思う。

自分がペットを飼おうと思ったときは、ペットショップではなく、保護猫がいいと思ったが、他の人はどうなのかを調べてみた。

